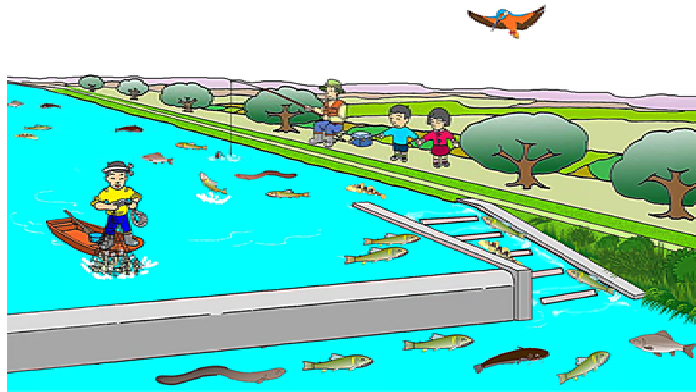


## -4 連携と調整

### 1. 流域住民の理解を得る

事業を円滑に進めるためにも、事業対象とする河川の流域住民に事前調査や計画策定の段階から積極的に事業の目的及び内容等の情報提供、意見の聴取等を行い、理解を得ることが重要である。

魚がのぼりやすくなると・・・  
みんなの暮らしや心が豊かになる。



河川に対する住民の考え方、立場は様々であるが、事業を独善的に行うことなく、流域住民への十分な情報提供に努めるとともに、アンケート等により住民の意見も聞き、事業が住民の生活環境の向上にもつながることを説明して合意形成を図りながら事業を推進する。

### 2. 関係者等との連携

魚がのぼりやすい川づくりは、利水者等、種々の河川利用へ影響を及ぼす場合があることから、事業を円滑に進めるためには事前に関係者と十分に調整する。

また、関係する他の事業者（下水道、農林等）に対して「魚がのぼりやすい川づくり」の考え方を伝え、連携して進める姿勢が重要である。

